

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 平石行雄 所属： 上三川町立坂上小学校

課題名： 「緑と花と小鳥の学校づくり」

1. 課題の主旨

坂上小学校は、たいへん緑豊かな学校である。学校の東側には広いクヌギ林をもち、校舎南側にも自前で校庭に畑を有しているほどの環境に恵まれている。学校を取り巻く環境も牧歌的で、動植物の自然の姿をいたるところで見ることができる。児童は、毎日こうした自分たちを取り巻く環境から、教室の中だけでは学ぶことのできない数多くのことを学んでいる。また、自然探しが好きで季節に応じて昆虫採集や、植物観察・収集など多方面にわたり自分たちの環境をたいへん好んで活用している。

次のようなことをねらいとして、さらにこの環境を充実させようと考えている。

- ① 様々な体験活動や縦割り班などの学年間交流活動を通して、豊かな人間性を育て望ましい人間関係の醸成に努める。
- ② 児童が環境緑化に興味・関心をもち、自主的・自発的に取り組めるよう指導の工夫に努める。

2. 活動状況

【環境緑化の実施状況】

(1) なかよしの森の整備と活用『学びとふれあいの広場へ』

学校東に位置する「なかよしの森」は、クヌギの木でおおわれた雑木林であり、児童にはこれまで昆虫や野鳥の観察林として親しまれてきた。昆虫や野鳥、植物の様子から自然や生命を学ぶ場として利用しているが、昨年度からの継続で、児童一人一人が緑を守り、緑を育てる態度を育成していく活動を進めている。全校生で取り組む活動として、「なかよしの森」を縦割り班（8班）で分割し、観察、除草、手入れなどを行い、さらに意識付けを図っている。

① 椎茸栽培



なかよしの森のクヌギの木を活用し、平成15年度から椎茸栽培を行っている。平成16年度は、全校児童で椎茸やくり茸の駒菌植え付けを行った。（約80本）普段の世話（水やり、天地替え等）を環境委員会児童（4、5、6年児童）で行っている。今年度は、椎茸の収穫、駒菌の植え付けなどを、継続して行っていく。また、収穫した椎茸は、家庭科や総合的な学習の時間の調理などに利用する

② 昆虫飼育



昆虫を幼虫の段階から育て、観察をする場所を設置した。カブトムシ・クワガタを育てられるように環境配備した。中学年の理科の学習で昆虫について学んだり、総合的な学習の時間で昆虫についての追究をするときに積極的に活用している。また、生き物を育てることを通して、生命尊重の心情を養っている。

③ 自然植物・鳥観察ゾーン



平成16年度に林の東側に木道を作った。周囲の下草を生やしたままの状態です。3、4年生が理科の学習で、昆虫や植物の観察学習ができるようにした。また、高学年が図工の時間を使って、巣箱を作り設置した。小鳥の住む環境づくりを進め、緑と鳥があふれる学校づくりを進めている。今年度は、野鳥の観察を通して、小鳥への関心を高める活動を行う。

④ 縦割り班でのエリア活動



「なかよしの森」を8つのエリアに分け、縦割り班ごとにそれぞれのエリアに名前を付け、除草や樹木の手入れ、草木の観察等を行っている。

また、そのエリアの中で、児童一人一人が自分の木を選び、樹木カードを作ったり、観察記録を付けたりする。自分たちの手で整備を行い、そのエリアの中で観察など、様々な体験活動を行い、学びの森としての「なかよしの森」の有効活用を図る。さらに、異年齢集団活動を行う中で、互いに協力し合っていることの大切さを学ぶことができるようにする。

⑤ あじさい群生ゾーンの整備



平成15年度に、「なかよしの森」の北側に、あじさいを植えた。児童が観察できるように、切り株を設置している。児童の手によるあじさいの挿し木を行い、色取り鮮やかなあじさいの種類を増やし、あじさいゾーンの充実を図っている。

⑥ 実のなる植物ゾーンの整備



「なかよしの森」の中に「実のなる植物の広場」を設け、そのエリアに実のなる植物（低木→キイチゴ、ブルーベリーなど6種15本）を植樹し、栽培している。このエリアでは、観察するだけでなく、触れたり、食べたりして楽しむなど児童がより樹木に親しめるようにした。今後、挿し木などで増やし、児童が収穫した実を地域に配布していきけるよう計画している。

⑦ 自然観察コーナーの整備



「なかよしの森」中央広場に、野外観察学習ができるよう、机といすを配置した。それらを生活科や総合的な学習の時間など、各学年での樹木や草花の観察などに活用している。

(2) いきいき農園活動

校舎南に設置した畑（約4a）を利用した農園活動を行っている。総合的な学習の時間、生活科の学習に役立てながら、野菜や各学年のテーマに沿った植物を植え、観察をしている。秋には、収穫した野菜を使つての収穫祭や保護者への発表などを本年度も実施する。また、各学年で農園の中に教材園を割り振り、理科学習に役立つようにする。

○ 各学年の栽培植物

- 1・2年→サツマイモ、枝豆、ピーマン、キュウリ、ナスなど
- 3・4年→ダイズ、トマト、ナスなど
- 5・6年→ジャガイモ、サニーレタス、トマト、キュウリ、ナスなど



キュウリの植え付け



ラディッシュの植え付け

(3) みどりの活動



隔週火曜日の業間の時間に「みどりの活動」を位置づけ、全児童が農園活動や除草作業などを行っている。各学年ごとに様々な野菜を育てたり、学年花壇に花を植えたり、除草したりして野菜や草花を育てる喜びを味わったり、環境美化への大切さを学んでいる。

(4) 児童の手による樹木管理活動



環境委員会の児童や高学年児童を中心に、教師の指導のもと、樹木の剪定を行っている。児童の手による環境緑化活動に取り組んでいる。

(5) 坂上地域の環境保全活動

学校周辺の緑豊かな環境にも目を向け、活動している。地域の中を縦割り班でウォークラリーを楽しみながら、自然とふれあう活動を行っている。

3. 結果

- ・ 児童、教職員が、学校の自然環境に関心を持ち、学校緑化活動に意欲的に取り組むようになり、環境緑化教育の推進が図れた。
- ・ 学校林「なかよしの森」が整備され、児童が利用しやすい環境づくりが進められた。
- ・ 縦割り班（1～6年までの異年齢集団）での活動が主だったため、学年の枠を越えて、児童同士が協力し合う姿が見られるようになった。

4. 今後の課題と発展

- ・ 次回（平成18年11月～平成19年10月）も助成していただけることとなったので、引き続き、「緑と花と小鳥の学校づくり」をテーマに課題を続行する予定である。
- ・ 「なかよしの森」の整備が、まだ不十分であるので、施設設備の充実を図っていく。
- ・ 「緑と花と小鳥の学校づくり」の「小鳥」のテーマに重点を置き、野鳥観察などの道具の拡充を図っていく。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など